

儿 4
1606



洛陽名一取集卷之二目錄

下賀茂

神樂宮

觀音堂

神恩院

廣谷

檜垣森

以子洗河

明星水

吉田寺

長刀坂

如意堂山

淨土寺

瀨見小河

日海坂

善正寺

南禪寺

駒瀧

急懸寺

吉田 神社

龍汰池

智福院

永觀堂

白川



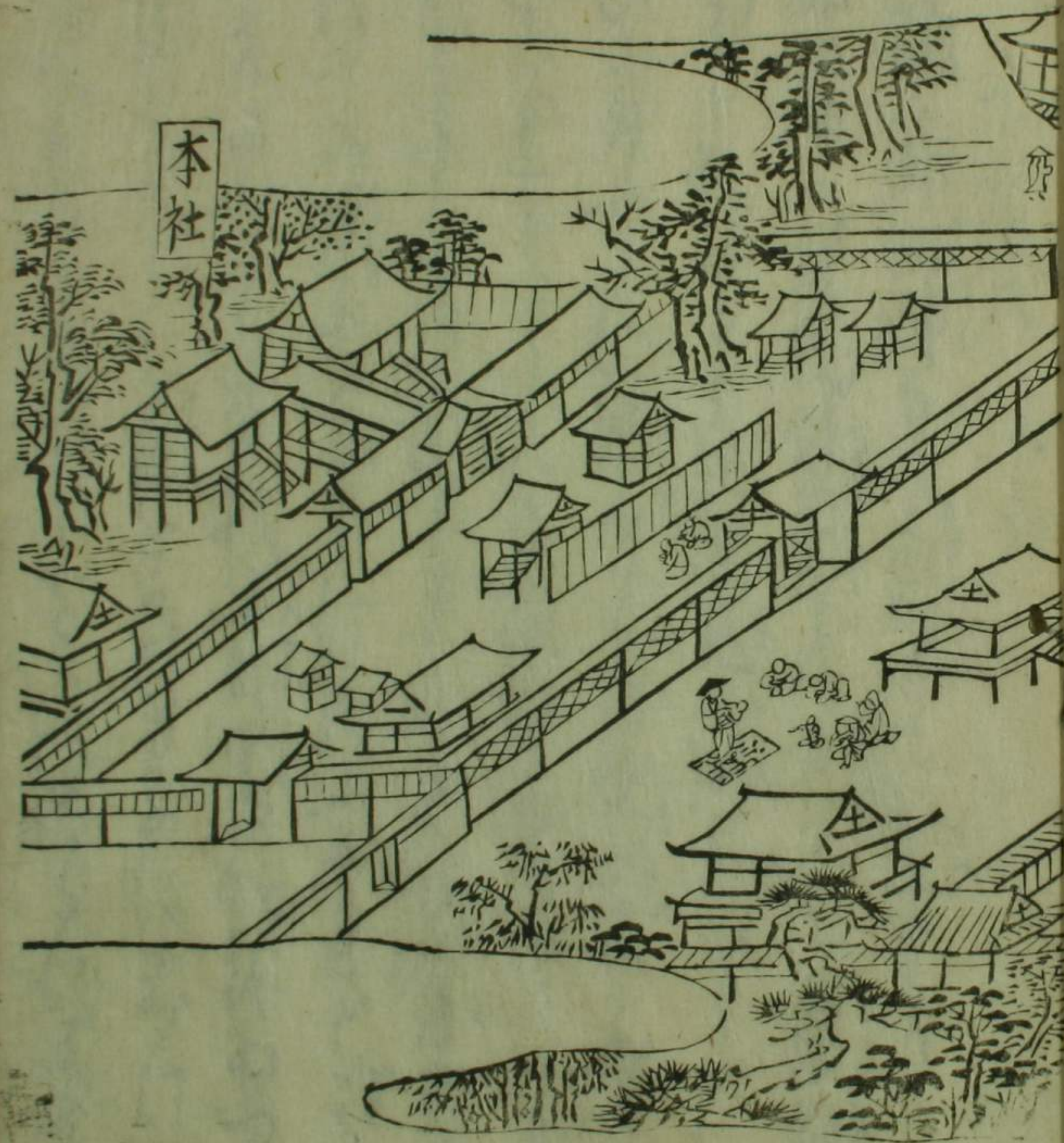


仁音堂

下賀茂



西門



下賀茂

下鴨目録

○は社ハ御祖神ミヤノシなり。あひむにまをり

御祖神ハ賀茂健甬命ミヤノシノノノミコ乃女メなり。玉依姫タマヨリヒメと

号ナリし如ごとくは瀬見小河セノカガなるに遊あそ

びしあり。河上カハノカミより丹塗ニの矢ヤをむり

たり。下シタに玉依姫タマヨリヒメなるひたり。屋上ヤノウヘ

に居イたり。今イマもかく。及および

はみ。男おとこの事こともけしめ。あ

いふ。あつて。一ひと日ひも

宴まじりをむり。魚イサの男おとこにさけ。汝きみ

の父ちちよあつて。さけい

盃に霞空ふるげうら。家屋を踏破し。
おの天神もちりなりう。どじく天小のぢりく
よじりひーとを。是らん別雷神也丹塗矢
今今の松尾大明神也
新古今に慈園之のよ。まの成終ふん乃及
をんとしーののみやまの朱のたまよのま
手乗葉に後成とまうり。いさちるるしとや
物いれれしふれ社なけりしこと

○湯を洗
本社れ東のくこまの川かりあ水と

少社を經ひお記まんにかこひせら井ありさ
け川あく六月くく人たうしとや。八重あま
云六月後邪神とまうり人あごむらあまのたに
と云るや。にの記くま串中とく。あまの系
まどあてしとるや。タ又とあする事也公事根
魚延式式よをもんくくや。六月後天武天皇
れは時より始敷とるんかひうり。日
よかきうり。六月の種まうを皆存福といふ
ぞ。定家はこれにうり。あまを傷うさ。今より
人といけい。あまはくもやさう。たりといふ

りし事や。賀茂明神の由の母。後を絶
つ。水れ面に移る。くろくたん。てん
き。てん

けいあつ。おとこさうく。ひび。か。あや。ま
りく。さ。さ。ら。う。ま。れ。ま。り。も。も。い。ま。ん。が。い。ま。
ふ。に。霊。威。や。ま。り。て。病。人。路。も。ま。は。ら。ふ。
なり。ふ。も。六。月。火。日。う。ら。し。悔。の。法。の。く。ぐ。は。あ。
こ。ん。も。ろ。う。く。う。ら。む。ま。色。も。興。た。り。
さ。ふ。ま。ら。う。づ。び。あ。そ。ん。ぶ。に。ま。る。ら。え。ら。ん。
茶。屋。れ。軒。に。た。り。く。く。一。枚。む。ら。し。
う。ま。の。く。く。ま。き。く。の。わ。ざ。ん。い。い。ま。り。

な。ぶ。ら。う。さ。い。お。ま。は。れ。う。ら。い。ち。い。さ。た。ま。ら。う。ゆ。
ま。つ。ら。う。が。さ。ふ。二。枚。れ。竹。ぐ。一。に。さ。一。あ。ま。
ま。ぬ。る。れ。炭。物。ま。た。う。く。ま。ら。火。は。ま。る。
ま。を。ら。い。く。く。ま。ら。あ。ま。ら。う。ま。か。
ら。ま。ら。う。く。く。ま。ら。あ。ま。ら。う。ま。か。
後。も。王。義。之。の。東。本。の。ま。ら。う。ま。ら。う。劉。晏。
が。ゆ。め。の。油。い。ま。ら。う。く。ま。ら。う。い。ま。ら。う。
ハ。蓮。花。れ。ま。ら。う。く。ま。ら。う。く。ま。ら。う。く。ま。ら。う。
め。を。ま。ら。う。く。ま。ら。う。く。ま。ら。う。く。ま。ら。う。
川。ま。ら。う。く。ま。ら。う。く。ま。ら。う。く。ま。ら。う。く。ま。ら。う。
亭。ま。ら。う。く。ま。ら。う。く。ま。ら。う。く。ま。ら。う。く。ま。ら。う。

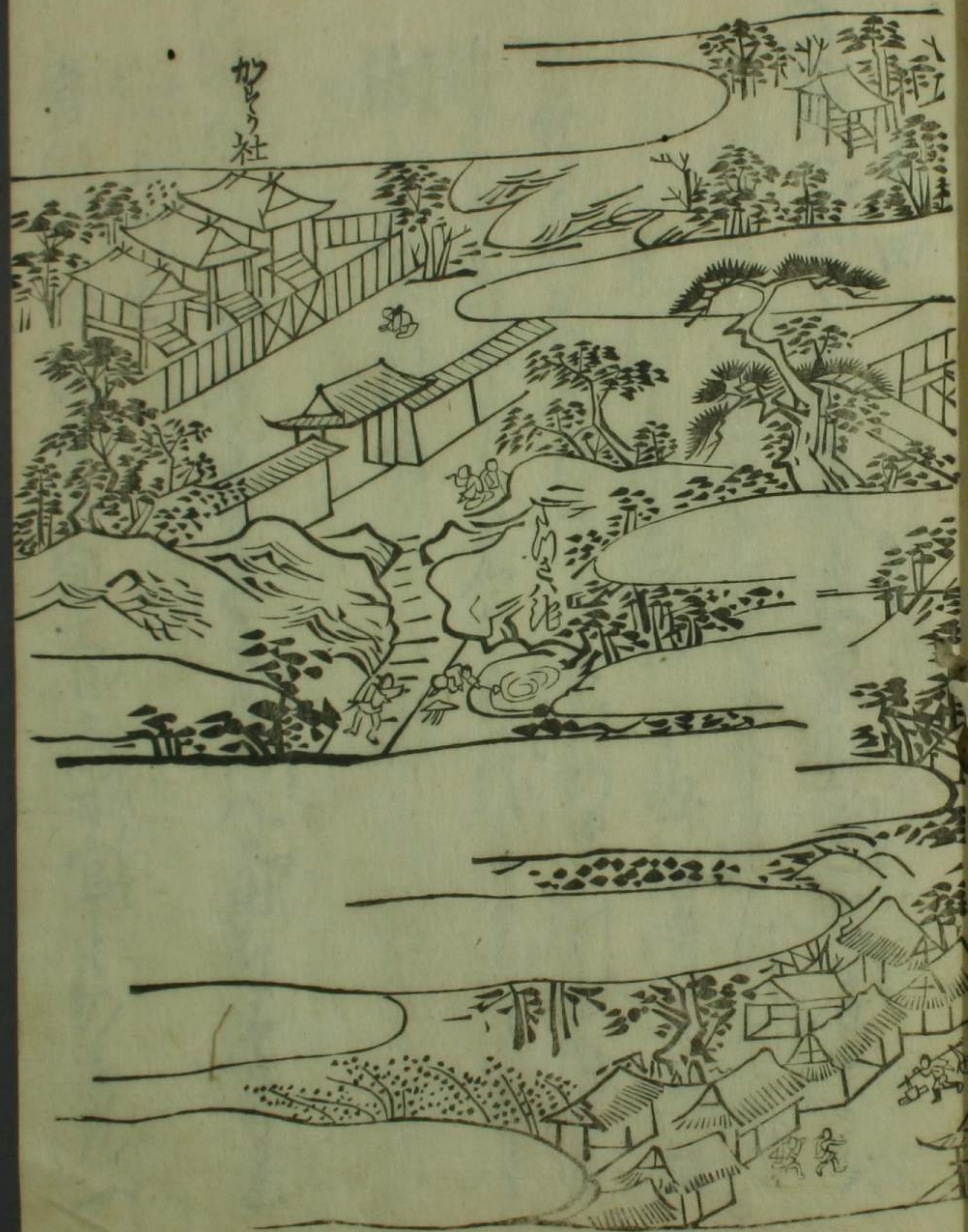
舞水うらみきこひもあぐりげあるに奥な
せり人こゝろ居く下り海よむもが多
く一向孫楚の松をぬぞよそ形ぬやと
んれば志をうつるふらうにびびく一紀森
の事をもとめて沙代のたあ一我あま
らと松のむもこころ心もとり海へ幕
れ月ゆるくほさあふとあぐりにあはる
そまられた人ようせ我もけく拍子とらして
ふらうらうらうらやむいかなさうらうら
ひーいかにがくらけりむもあまも
あおの川水よ。いづれいづれもく

かぎ入たまむひらうらうら魏帝れ呉質に
つらみ孫をい書くや清泉流れとほに
あまの傳元が流く影せりくやうらうら
すづくもそらうら茶菰留客とのぐ。杜
陵が白むけ地の今ぞうらや。ロげさみしえ
曲水の宴ちうらうら。河朝の松うらうら
に松風吹をくも。波をそのまもむらうら
ぶらうられまむけなうらうら。わうらうら
はうら目よ。名あかいうらうら。又かのうら
螢火れあやうらうら。うらうら。京華宮い
うらうら。あやうら。うらうら。の窓のうらうら。うら

わつしつを感傳の賦とや自照於陋形と
つ紀羅鄴の詩ハ紅蠟滿歌筵とけし
セダふささささささ又蒲草の大小とけし
祓とささささのあつさささささささ
つくささささささ家げさささささ
け父のさささささささささささ
とささささささ

匡房と神心乃蘇我とさささささ
さささささささささささささ
ささささささささささささ
さささささささささささ
さささささささささささ

○瀬見小河 此河ハ社の南のつ也光ハ賀茂社
合さく時長明月のさささささ
けさ八月を流はたつさささ
入道判者さささささささ
又歌眼刺さささささ
さささささささささ
乃實名也さささささ
入さささささささ
さささささささささ



吉田

○只取二葉より上れ色。東野海也。道より
^興興る。河魚也。くみんも。村家
^居居候也。拾遺は魚盛
^身身(に)名。た。吉田の里。杖を
^請請(い)も。君の。代。一
^請請(い)も。君の。代。一

○社

家上所也
^社社 神宮
^宮宮の破風は日本最上日高日宮と
^宮宮の破風は日本最上日高日宮と

あり額も。嵯峨天皇の震シノ翰コノなるも。その家
下に大元宮との額有あり。後土御門の震翰也。
又此流に日本国甲三千餘座天神地祇八百
萬非とつげつぐも。清シヨ谷タニ之ノ家ノ也。
けり。此額の右方に。野宮ノノに。終觀年中に。中
後陽成院乃震翰シノコノとて
社ハ。春日社ハルノヒノとて同作なり。貞觀年中に。中
仙チノ藤原山蔭フジノに建タテ管カン。いりしとて。一條院
永延エイエン元多ゲンタいりしとて。奉幣ホウヘイれり。ゆりぬ
奈良京ナラノに春日社長岡京ハルノヒノに大魚野オホイサノ平安城ヘイアン
よ。吉田社ヨシダノとて。いりしとて。帝ミカド廟ミヤより。いりしとて。皇ミコ社ノと

ちりしとて。ゆりぬ。又御堂ミツドウ白
道長公ミチナガノ法成守ホウセイノをいりしとて。吉田社ヨシダノとて。いりぬ
興キョウ藏ゾウとて。春日社ハルノヒノに。撰センとて。いりしとて。や

○八神殿 本社ホンシャの位イ南向ミナミムカヒに。於おりしとて。
殿テンのありしとて。鳥トリ母ハハに。元もとに八神殿ハツカミノとて。いりしとて。
額ガクも。いりしとて。いりしとて。書シヨ士シのいりしとて。いりしとて。

○春日神 本社ホンシャを。いりしとて。いりしとて。いりしとて。南
に。いりしとて。いりしとて。いりしとて。いりしとて。

○修務宮 本社ホンシャの真マコトなる。内宮ウチノミヤ外宮ソトノミヤとて。額ガクも。

○神樂志

春日神乃社の南志づけるに
村ちもりその内よ少社社務遷し
るに載馬は律師慶暹のよつあへを
るひはしむるや社務しはるさつひは
鄭ふふかやうめうこくはるしけ思のぞく
ひはるぐりるこ。中^唐華^唐のをもあま。丹丘^唐方
丘のぞく。天地はまはるめうや。社社
思ふらふはる名さよこ
まう。社をなま。高野山や一れ心る
と。當の御^神御^神して。ふるひはる
思ふらふ。吉田の地を。社をなま。御^神御^神の御^神御^神

社とて

一條院の山時ト部並延し
あつ。藤氏の宗系致し。春日社とて
し。日社の天岩戸にありき。時
諸社神をなま。社務しはるさつひは
か。社にこのころを。社を
家とて。ト部家説しはるさつひは

延喜式第一卷 齋齋神祭三座坐山城國愛宕郡
神樂岡西北四月令ト部丁人吉日祭之十一月亦
同

○日降坂 吉田山東のふもとにあり也。もともあきく
明王井とくわくく日輪澤所のくわくく
修んさ

○龍澤池 本社の西をくわくく也。是とれりり
奈良れ猿澤池をくわくくはくわくくそのくわくく
池よ絶くくくくくく中華よ龍湫と云
くわくくくわくくく

○観音堂 日降坂乃たよあり中納言法下慈
惠の故房也。建礼門院中原入湯のまんじ
くわくくくわくくく

吉田寺

○け寺ハ吉田村のまくくく西向れ堂也。本寺ハ
観音なり

吉備大臣を 建平くぞ世のをりふ七観
音くくく七所ハ一安よくわくくくくく
その一つしんま

善正寺

○け寺ハ吉田村南東也。日蓮宗肯なり
関白秀次公をくわくく善提示なり。かつら公
れ寺形くわくく瑞龍院殿に親ま公の母
公の御親れくわくく二つあり石塔有是るん

余の親屬少なり主後出三子と云々
なま公紀伊のころ節よくいれ生害もあび
と記され二人いまだ未だせよたもめび
てさうげもあきく切腹し終りあは
ししてさうとよそあつてさうあはれ
何れもふ思ふおもひぶくぞ書傳り記

○智福院 けつを回らぬと云乃方く傳教
法なり。此の傳授も一紙や書せんが旨く

○神恩院 けつを智福院の南に。善好法師

世にのほくうりす。お世もわづくみ

備安仁が乳瓶よりうごいて用居終るといひ

ハゴぞかふの行もこれぬ。附をいれ

す。柳みどりいれりてまのけりり

れともしもな。茶室よりりり。糟なり

す。はくしもあぐらふ。何さうく月り

め。と徑の行に映。一法をいれ

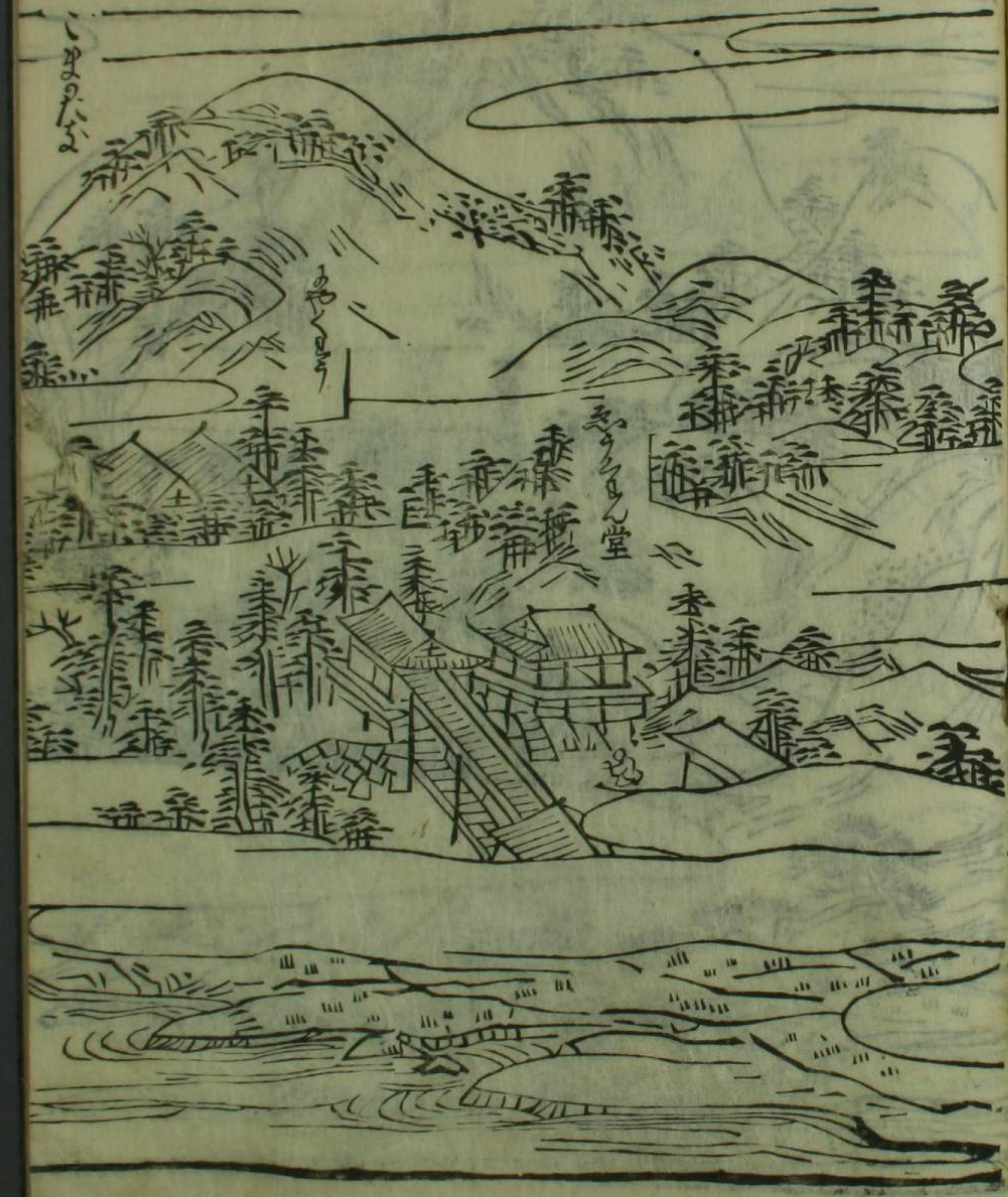
ん

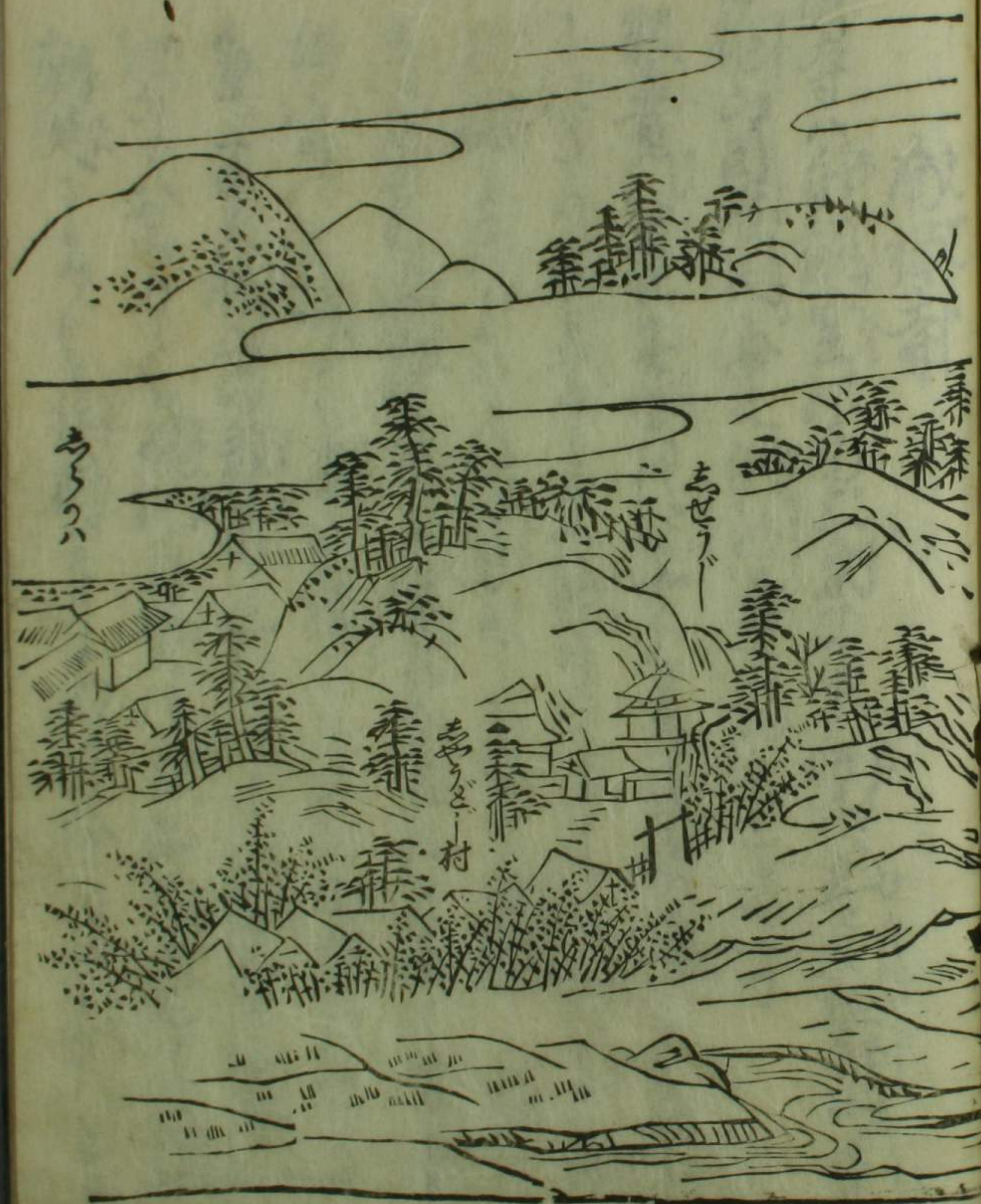
○長坂 けつを鹿谷へりり送

東山

三十一

東山





あつた

あつた村

あつた

あつた岳



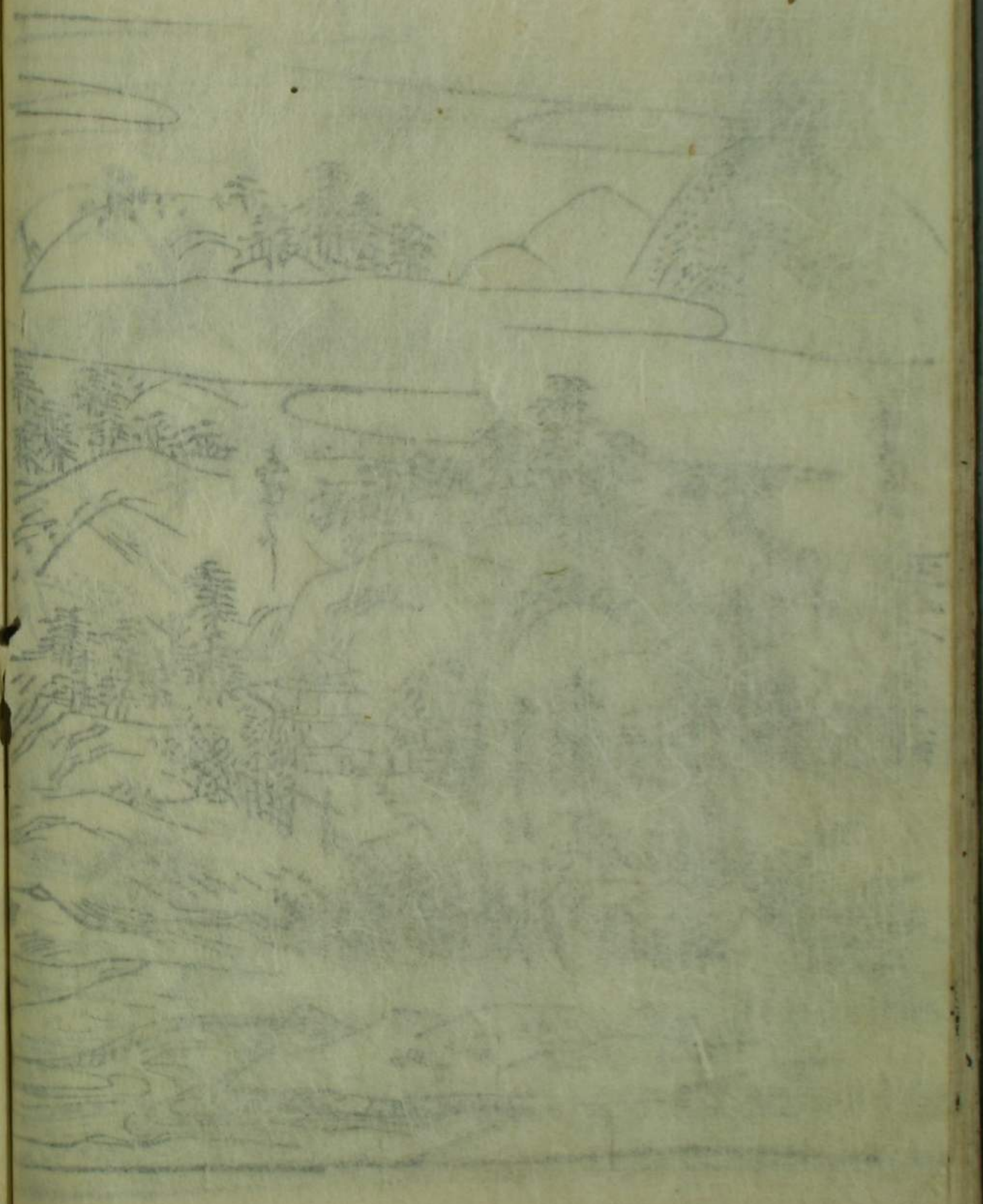
あつた

あつた

南禪寺

○い寺ハ龍觀堂ハ南之新の東山ハ龍園禪師山号
龍山曰唯天海之例被居東山之と者乎

秋普門号ハ龍巖信法師ノ方ハ後法陽の惠日山
よつこり夫を号す。又海濱にありて海客の倫
断橋よりいふとせしむ。そのまゝのら。海朝一塔に
居たり。弘安に年ハ照東山。白と返す。夜々重
相寄りと振く。席は補く。一は又正徳にありて
龜と會龍山の觀宮よりいふ。中あや
にのくおらりて。嬪妃らや。いひあつ。去るる人
朝廷よりく。海濱にありて。人々。いひ。比。を。



妖怪とてくろくし有仏居よはつとてしりつとて
時よ南京に睿尊殊勝の冬も有し有文中よ
り。登まわとも。空元は編一けしめらるる
一なるけつし時普つのはらたつしよる
て。さしと文中にめりしけしめらるる
く納まはらるるしを渡し一居らるるよのあや
さ本とさつりつらるる。さしと文中にめりし
物とく。甲山の犯さるる。さしと文中にめりし
伽藍に試うきぬ。空元は編一けしめらるる
者一めらるる。空元は編一けしめらるる
いさしを病ぬ死とさるる。さしと文中にめりし

○此の所を孝行同三月三日坐化しり心願
師とてと。のらま。大月圓師と号し
○義王子 南福るれは。空元は編一けしめらるる
成知し。けしめらるる

永観堂

○け寺。南禅寺の小。若王とて。南
親永観姓。源氏東大。有慶に。論議学
諸宗とて。乃ち小洛東。居。林。おら
つとて。世の交。安養。七宝塔
成。佛舍利二粒とて。誓しけ
又薬王院

一、六尺乃彌陀像は多利。南京の衆
選にまゝ申官上申也。東大寺務に依り
如されど。寺供をうけおる。そのに如
たたりん。慈仁のわまらば。観
獄獄界早早より。飢寒飢寒は同々。ね。観
あり。い。わ。け。し。も。又
俊音。あ。ゆ。病やまを善知識善知識といひて
打毛打毛は。ゆ。め。や。天永二年の
秋。ま。り。て。後とてい。の。め。る。
ハ。世尊世尊ハ。一。て。淫ね。一。し。
親親。今。一。お。れ。一。り。は。は。と。ふ。

よ。は。ぎ。て。其。一。月。二。日。に。沐浴沐浴。一。念。仏
と。お。へ。あ。面。の。く。お。り。ぬ。志。の。異ちが。あ。わ。
ま。は。ふ。一。お。れ。に。く。て。い。と。ぞ。
見返見返。仏。
あ。ら。ふ。永観律師永観律師。衆しゆ。に。堪た。送
し。け。ら。お。り。一。襪はき。子。乃。ひ。が。け。り。
も。れ。し。う。は。ふ。む。び。一。ら。き。ぞ。
け。し。て。乃。に。強。陀。う。一。ら。き。り。く。
永観が。し。の。の。ゆ。う。一。ら。き。り。く。
た。は。を。た。の。し。う。が。こ。し。さ。く。お。つ。し
て。乃。ら。お。れ。し。う。の。ま。い。り。て。世まの

人れ儼儼新がうりやちりひりやうり
いりりこのけりけり乃首うりりりり
かりりりりりりりりりりりりりりり
世におほひのあつたけりけりけりり
ゆりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりり
神仏にうりりりりりりりりりりりり
けりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりり
らりりりりりりりりりりりりりりり

鹿谷

○けりりりりりりりりりりりりりりりり
俊寛僧都の山庄なりりりりりりりりり
村家おほくちりりりりりりりりりりり

○如意室山 鹿谷の上也日本五岳か一なり

金剛宝山 如意室山 愛宕山 比叡山

高千穂峯 是な糸糸のりりりりりりりりり

六白れり夜四方乃らりりりりりりりりり
字本ハ船のりりりりりりりりりりりりり
ち。大りりりりりりりりりりりりりりりり
湯門主のりりりりりりりりりりりりりりり

浄土寺村

○けふハ白河乃東より東に家なるに立はげむり
村なるに

○慈照寺

けふの浄土寺村の東のつや

義政將軍

軒此殿号慈照院延徳
二年正月七日薨ス
山善提下也

院乃假庭に

園と張流のく彩りあり

銀園をくくもとるり。小山あり金園あり。か

らふらふ

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters "浄土寺" and "義政".

